

学校と家庭・地域を結ぶ

白布城だより

栃木県立真岡高等学校定時制課程

〒321-4331 栃木県真岡市白布ヶ丘24番地1

☎0285-82-3413 fax0285-82-2913

巻頭言○「コロナ禍の中で」

教頭 植竹 暁

保護者の皆様並びに定時制後援会、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に多大なるご協力とご支援をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

私は、今年度から本校定時制の教頭を務めさせていただくことになりました。微力ながら生徒の成長と本校定時制の発展のために尽力して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、入学式及び始業式については細心の注意を払って実施したものの、その後は臨時休校となる非常事態から始まりました。当初、4月22日までとされた臨時休校は、5月6日まで延長、5月31日まで再延長、そして5月24日までに短縮と、目まぐるしく変更となり、その間、本校では、生徒の学びを保障するため、各家庭へ学習課題を送付し生徒に取り組みさせたほか、5月13日からは分散登校を実施し、15日までは個人面談、5月18日以降は、全校を1・3学年と2・4学年の2グループに分け1日おきに登校させて授業を行うなどの対応に追われました。また、夏期休業を8月3日から26日までに短縮して授業日を確保する対応もとりました。

6月からは通常登校となり、できる限りの感染症対策を講じながら、教育活動を実施して参りましたが、校内体育大会や定通総体が中止になるなど、学校行事への影響は避けることができませんでした。学校においては、基礎的な学力はもちろんのこと、自主性や社会性など、生徒が社会で自立して生きていくために必要な力を育てていく必要がありますが、そうした様々な力の育成に、学校行事が果たしている役割は大きいものがあります。このため、一部の行事が中止となってしまったことは、とても残念でなりません。

2学期も様々な学校行事を計画していますが、その一つとして、10月23日（金）に真岡西ロータリークラブと連携した全校ボランティア活動（地域清掃）を予定しています。生徒たちにとって、地域の大人の方々との活動や交流は、貴重な経験であり、学んだり感じたりするところが多いのではないかと思います。また、地域の方々に、生徒の様子を知っていただく、数少ない機会でもあります。このところ全国的に新型コロナウイルス感染症が再拡大しており、先の読めない不透明な状況ではありますが、是非とも実施したい行事であり、状況の好転を切に願っているところです。

今後も、前橋校長の下、教職員一丸となって、生徒一人一人に「目をかけ、手をかけ、心をかける」教育に努めて参りますので、保護者の皆様並びに定時制後援会、地域の皆様には、引き続き、本校の教育活動へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特集○新型コロナウイルス6か月

今年度は、新型コロナウイルスの蔓延の中で始まりました。日本では、2月27日の安倍晋三総理が、「一斉休校を要請する考え」を表明。卒業式、入学式を除く多くの行事の中止が余儀なくされました。さらに、4月16日に全国的に「緊急事態宣言」を発令。社会生活にも大きな混乱が見られました。本校でも、修了式も実施できないまま昨年度に幕を引き、今年度は、4月7日に、新入生と保護者、2名の御来賓だけの、ささやかながらも厳粛な入学式を行った後、必要最小限の学校行事をこなしただけで、すぐに、再び休校に入らざるを得なかったのです。

中国の武漢市で新型コロナウイルスの確認から、8か月。2月22日の栃木県在住の方の発症確認から6か月に到った現在、世間はどのように推移したのでしょうか。直近2か月余りを新聞（下野新聞・讀賣新聞）の抜粋で迎ってみましょう。

- ・ 6. 25木 県内 66人 (県内の数字は、感染者累計)
 - ・ 6. 28日 県内 74人 **※県内初クラスター発生(宇都宮市)**
 - ・ 7. 3金 ※都内での感染者、急増107人
 - ・ 7. 9木 県内 90人 **※10歳未満初感染**
 - ・ 7. 10金 ※東京224人 (以下、東京の数字はその日の感染者数)
 - ・ 7. 15水 県内103人 **※県内感染者数100人超え**
 - ・ 7. 17金 県内112人
東京286人
 - ・ 7. 22水 県内139人
東京237人
 - ・ 7. 24金 県内151人
東京366人
 - ・ 7. 26日 県内159人 **クラスター発生(日光市)**
 - ・ 7. 30木 県内185人 **県内感染者16人、初の二桁。**
 - ・ 7. 31金 県内感染者6人(宇都宮市 鹿沼市 益子町など)
 - ・ 8. 3月 国内感染者 39, 164人
(東京都、一部店舗に営業時間の短縮や休業を要請。)
- 県内199人(+4)**
※国内感染、5日連続1, 000人超え

日本では、学校休校がほぼ20日延長されて6月1日に、普通授業が「**新しい学校生活様式**」に基づいて再開されました。実に、3か月ぶりの全員登校になりました。しかし、全国的には、この「**緊急事態宣言**」が発令されていた期間、如実に感染者が減ったのも事実です。

上記の感染者数の推移を見てみても、東京都や栃木県でも、7月に入ってから急激に感染者が増加していることが分かります。「宣言」が解除になってからの「人の移動による感染」が語られています。県内では、飲食店関係でのクラスター発生が増加の中心のようです。真岡市でも6人の感染者が確認されました。

7月28日には、本校の前橋校長が、全校生徒に向けて次のようなメッセージを出しました。

- 本県も、警戒レベルが「感染拡大注意」に1ランクアップ(7.28・火)した。どこの学校で感染者が出てもおかしくない事態になった。**
- 万が一感染した場合でも、だれも悪いわけではない。が、感染を未然に防ぐために、各自、対策を怠ってはいけない。**
- 学校では、学校行事計画を「中止」したりしないが、状況によっては別案を提示することもある。**
- 本県の教育長から、近くに感染者が出て冷静に判断をして差別や偏見のない生活を送って欲しい、とのメッセージがあった。**
- 感染した場合や感染が疑われる場合は、速やかに医者や関係諸機関に相談すること。そして、その時点で、担任の先生が学校に電話連絡することを実行して欲しい。**

と、話されました。

たとえ、近所にお住まいの方や同じ学校の生徒、お知り合いの方が感染したとしても、特異な視線を投げかけるのは一個の人間として如何なものかと思われれます。だれも、率先して新型コロナウイルスに罹患する者はありません。回避すべき場所に個人の意志で接近した人はともかく、私たちは、感染の恐怖を冷静に見つめ、自分にできる「**最大限の予防と注意**」を実行するしか感染を回避する方法はないと思います。

どうか皆さま、**3密を回避して「新しい生活様式」を地道に実行すること**で、この危機を乗り越えようではありませんか。
(文責：記録・広報係)

1学期の軌跡

●入学式・オリエンテーション

令和2年度の入学式が、4月7日(火)に本校講堂において全日制・定時制の入学生217名とその保護者が参列して挙行されました。本来なら、在校生や各種PTA役員の方々も参列するのですが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、最小限の出席者でコンパクトにまとめられた入学式となりました。

しかし、前橋均校長先生の式辞や全定のPTAを代表して、全日制課程の樋口貴則会長が祝辞を述べられ、40分ほどで式典は終わりました。

校長先生は、「皆さんの高校生活のスタートは、新型コロナウイルスの流行という、思いがけず困

難な幕開けとなってしまいました。心身ともに、逞しく自立して欲しいと、心から願います。」と述べられました。

その後、定時制課程の新入生17名は、保護者の皆さまと同行して定時制自習室に移動。高校生生活開始にあたってのオリエンテーションを行いました。

●新任式・離任式(4.8水放送)

4月8日(水)、先生方の新任式と離任式が行われました。

例年、転退任された先生と新しく着任された先生とが、在校生に挨拶されるこの式典ですが、今年度は職員室から校内放送を使って行われ、本校を去られた先生はお見えになりませんでした。

この3月で本校を去られた先生は、校長の軽部幸治先生(宇都宮高校長に転出)、教頭の篠原康宏先生(鹿沼商工高校定時制課程教頭に転出)、英語科の木村美津子先生(茨城県の小学校)と数学科の古澤秀友先生(学悠館高校)です。そして、新たに、校長に前橋均先生(栃木女子高校から)、教頭の植竹暁先生(県教育委員会から)、宇都宮高校からお出でになった石川善行先生(地理歴史・公民科)と小山西高校から来られた岡野晃先生(数学科)です。

●第1学期始業式(4.8水)

新任式・離任式に引き続き、令和2年度第1学期の始業式が行われました。今年度は、「密」の状態を回避するため、生徒はそれぞれの教室で、職員室からの放送による前橋校長先生の式辞を聞きました。前橋校長先生は、「今年度は、この始業式の後すぐに休校となる異例のスタートとなるが、コロナの流行で『心まで感染してしまう』ことが、一番困ったことだ。皆が持っている「花のつぼみ」には無限の可能性が秘められているのだから、春に精一杯花を咲かせる桜のように、コロナを乗り越えて、自分らしい大きな花を咲かせましょう。」と挨拶されました。

●新型コロナウイルスの関係で中止された学校行事

対面式(4.8) 新入生歓迎会(4.8) 創立記念式典(4.20) PTA総会(5.15)

●6月1日、「夏季休業期間の変更について」文書を、保護者に配付

4月から5月にかけての「休校」に伴い、授業時数の確保の観点から、長期休暇を短縮して授業を行うことになりました。

各校、それぞれのスタイルで授業時数を確保しますが、本校定時制では、「夏休み」を8月3日(月)から8月26日(水)とし、授業日数を確保することになりました。アルバイトなど昨年とは異なるシフトになると思われますが、よい夏休みにして欲しいと思います。

●身体計測

例年なら、入学早々に行われるべき身体計測ですが、今年度は、各学年の体育の授業時に、健康安全指導部の鈴木先生が体育館に出向き、保健体育科の佐藤先生と実施しました。

●各種健康診断の実施

当初の予定を変更して、下記のように各種健康診断が実施されました。検査の結果、「要精検」の指示が出た生徒で、まだ市井の医師の診断を受けていない人は、この夏休みを利用して検査してください。

記

結核検診(6.15月) 腎臓検診(6.11木) 同2次検査(7.1水) 心臓検診(6.25木)

●専門委員会・第1回中央委員会

6月12日(金)の3時間目、今年度の第1回専門委員会が開催されました。それぞれの委員会の活動方針が話され、実質的に学校行事等の枠組みが整いました。

また、生徒会中央委員会では、第1回生徒総会の準備を行いました。

●情報モラル教育

近年、携帯型のコンピュータの進歩がめざましく、スマートフォンには次々と新たな便利ツールが搭載されています。それを受けて、1,2年次生は6月19日(金)、3,4年次生は23日(金)の3時間目に「情報モラル教育」が行われました。

生活の情報交換や外部情報の視聴が便利になった反面、その使い方によっては、人権的な問題が発生するという事態が起きています。SNSやフェースブック、ツイッターなど、正しく利用すれば効果が発揮されるのに、自己中心的に、あるいは意図的に相手を誹謗中傷するような書き込みが

なされれば、それは明確な「犯罪」行為です。何気なく自分の感情を携帯電話やスマートフォンで表現してしまうのですが、文字や絵文字にする前に、「人間の感情」というものを、第三者的立場になって考えられるひとになって欲しいと思います。

●交通講話

今年度の交通講話は、「密を避ける」観点から、「情報モラル教育」とタイアップして、同日の同時刻に会場を代えて実施されました。

本校定時制では、ここ何年も大きな交通事故は発生しておりませんが、いつ起きるかは誰にも分かりません。起こそうと思って事故に遭遇する人はいませんから、「気の緩み」とか「他のことを考えていた」「よそ見をしていた」などの集中力の欠損が起因になる場合が多いと思います。生徒のみならず、保護者の皆さまも、そして我々教職員もみんな同じです。お互いに気をつけましょう。

●進路ガイダンスⅠ・Ⅱを実施

7月3日(金)の3, 4時間目と21日(火)3~6時間目を利用して、進路ガイダンスが開催されました。

3日の進路ガイダンスⅠは、「学科別・分野別・就職」の大きなグループに分かれて、4校の専門学校の方々から、「看護・医療」系や「介護福祉」系など全部で8つの講座に分かれて前半・後半の二部構成で実施されました。

21日(火)のガイダンスⅡは、「進路相談会」と銘打って、「職業別体験型ガイダンス」を全21講座、開講しました。その他、就職希望者のために実践的な指導もなされました。

進路指導のベテラン、本校定時制の小森法史先生の人脈をフルに活用されたガイダンスですが、生徒は、それぞれの感想を抱いたことと思います。

●大掃除・生徒会役員改選

短縮された1学期の大掃除が、7月17日(金)の3時間目に行われました。トイレの手洗い場などは、鏡などを時間を掛けて丁寧に洗って磨くと、みるみるきれいになり、生徒達も嬉しそうな顔をしていました。

その後、4時間目には、本校記念館に集合して、次の生徒会の「役員改選」が行われました。結果は下記の通りです。

記

会 長 白井 城依(3年次)
副会長 直井 蓮(3年次)
渡邊 紫音(2年次)

●校内生活体験発表会

今学期も押し詰まった7月30日(木)、本校記念館で「校内生活体験発表会」が行われました。

各クラスから選ばれた代表8名がエントリーしましたが、発熱等で欠席者が出て、6名が自分の考えを発表しました。マイクの使い方などで差が出てしまいましたが、出場者はみんな個性を生かした内容の作文を発表し、レベルの高い会になったと思います。

校長先生は、「みんな、自分から目を背けず、自分としっかり向き合い、自分らしさを生かしていこうという前向きな意見を述べていた。金子みすゞの詩にあるように『みんなちがって、みんないい』…。そこを認め合って自分らしく生きることが大切です。」と感想を述べられました。

入賞者は次のとおりです。

最優秀賞 『自分の夢を叶えるために』

優秀賞 『別れと出会い』

『この高校出思ったこと』

『僕が歩んだ道とこれから歩む道』

八谷花梨(1年次)…県大会本校代表

廣本波美(3年次)

新山叶翔(2年次)

ピント ジオ(1年次)

なお、規定では、最優秀賞1名 優秀賞2名となっておりますが、優秀賞候補の得点と同じで、審査員が「優劣つけがたい」との結論になり、優秀賞3名という結果になりました。

最優秀賞に輝いた八谷花梨さんは、本校代表として10月17日(土)に行われる予定の県高校定通文化発表会に出場します。おめでとうございます、頑張ってください。

●終業式

6月1日(月)から、通常登校が始まった今年度の第1学期でしたが、7月31日(金)、無事、

終業式を行いました。

前橋校長先生は、『どうせ、無理。』という言葉の払いのけて、『自分の夢』に向かって努力し続けることが大切です。」と述べられ、大リーグで活躍されたイチロー選手の「出来っこない！」と人に笑われたことでも、努力を惜しまず挑戦し続けて、世界最多安打達成という「夢」を実現し、また、他人に馬鹿にされながらも、北海道の町工場でロケット開発に成功した植松 努さんの努力とその成果を紹介して、生徒達を鼓舞されました。

生徒の皆さんも、自分の「夢実現」に向かって、この夏休みを有意義に過ごしてください。

令和2年度 教員一覧

校長	前橋 均	
教頭	植竹 暁	
4年次担任	小森 法史	英語科
副担任	佐藤 成之	保体科
3年次担任	横川 航一	数学科・情報科
副担任	大谷 武	国語科
2年次担任	伊沢 敦夫	地理歴史科・公民科・国語科
担任	岡野 晃	数学科
副担任	河上 敦朗	国語科・芸術科
1年次担任	篠原 義勝	理科
担任	石川 善行	地理歴史科・公民科
副担任	鈴木久美子	養護
非常勤	大塚 純子	日本語
	藤原 真弓	日本語
	新井 紀子	家庭科
	上野 智司	国語科
	渡邊 健一	英語科
	川上 秀範	商業科
事務長	江田 正美	
主査	高野 真代	
学校栄養士	森田 彩子	

令和2年度 生徒在籍数(人)

	(男)	(女)
4年次	12 (11)	(1)
3年次	20 (11)	(9)
2年次	17 (12)	(5)
1年次	16 (9)	(7)
全校	65 (43)	(22)

●白布の風～あとがきにかえて～

保護者の皆さま、定時制後援会、自治会の皆さま、お元気にお過ごしのことと存じます。

コロナに始まりコロナで幕を閉じた「第1学期」でした。多くの学校行事にしわ寄せが来てしまい、中止せざるを得ない行事も出てしまいました。筆書にとって、定期試験(第1学期中間テスト)を実施しなかったのは、初めての経験です。また、前述しましたように、「休校期間」の授業時数を確保するために、各高等学校は、独自の論理で夏季休業を短縮。進学校などは、さまざまな進学情報に振り回されながらも、受験に臨むために実力をつける授業態勢を計画しています。

しかし、真岡市を含めて全国的に新型コロナウイルス感染者が日ごとに増えているのが現状です。まだ、正式なワクチンも治療薬も開発途上ですが、お一人お一人が感染しないように、3密を避けたり「新しい生活様式」に基づいた生活を送り、感染を回避しましょう。

どうかPTA、定時制後援会の皆さま、この「ウイルス禍」が過ぎ去って、伸び伸びと生活できるようになるまで、我慢を重ねて堪えて参りましょう。

8月27日(木)の第2学期始業式に、生徒達が全員元気な顔を見せてくれることを、楽しみにしています。